

六田晴洋の

私たちの
ご近所さんトガリ
ネズミ
ラウアー

VOL. 33 アザラシを撮りに湖へ

ベーリング海やオホーツク海などを南下して冬の北海道にやってくるゴマファザラシ。流水の上で出産と子育てをして、春、流水と共に大部分のゴマファザラシは北へ帰ります。そんなゴマファザラシが多く集まる場所が、海とつながっている能取湖とサロマ湖です。凍った湖面は貴重な休憩場所。そんなシーンを撮影するため、私は年末に湖へ向かいました。



湖面の氷とゴマファザラシの群れ



氷上で休むゴマファザラシ

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスの
カメラマンやディレクターとして
野生動物や自然風景を撮影している。

<https://rokutaharuhiro.com>


ひと晩で変貌した湖

例年、クリスマス頃に湖面が凍るはずの能取湖とサロマ湖。ところが到着時、ほとんど凍っていませんでした。もちろんアザラシの姿もありません。ここにも温暖化が影響しているのでしょう。アザラシの研究者からは、この冬は凍らない可能性さえあると言われました。さてど

うしたものか…。しばらく様子を見ることにしましたが、3日経っても湖が凍る気配はありません。無情にも宿泊費だけが積み重なっていきます。そして、この日ダメならいい加減帰ろうと思っていた4日目。期待せず湖を見に行ったらなんとこの光景（写真）。前日とは全く違う湖の姿に驚きました。

風が作ったアザラシの休憩場所

広範囲の水面を覆う氷と、その上で寝転ぶ数百頭のゴマファザラシ。この氷はなぜ突然現れたのでしょうか。一晩でこれだけ一気に湖面が凍ることは考えにくいです。よく見ると、氷と氷の間に水面が見えています。おそらく氷はここで凍ったのではなく、流されて集まったもの。

この日は猛烈に風が強く、立っているのも大変なほどでした。その強風によって、湖のいろいろな場所で凍っていたわずかな氷が、風下であるこの場所に集結したのでしょう。自然や動物の動きを予測することの難しさと、だからこそ簡単に諦めてはいけないということを改めて思い知りました。思い通りにいかないことがほとんどの野生生物の撮影は、時に精神の修行です。